

道徳科（人権）学習指導案

1 主 題 支え合って生きる

2 主題設定の理由（省略）

3 ねらい

人間を信頼し、たくましく生き抜いてきた人々の生き方に共感させ、人間としてよりよい生き方を求めることが、すべての人の幸せにもつながることに気付かせ、差別解消に向けての意欲と実践力を高める。

4 指導計画

（１）これまでの学習

- ・総合的な学習の時間「全国水平社の設立」（わたしの願い）・・・・・・・・・・ 1 時間
- ・総合的な学習の時間「三月三日の風」（映画）・・・・・・・・・・ 2 時間
- ・総合的な学習の時間「高州－わたしのふるさと－」（わたしの願い）・・・・・・・・ 2 時間
- ・総合的な学習の時間「許せない就職差別」（わたしの願い）・・・・・・・・・・ 2 時間
- ・総合的な学習の時間「就職差別につながるとされる14項目」（わたしの願い）・ 1 時間

（２）現在の学習

- ・道徳科「娘の遺してくれたもの」（わたしの願い）・・・・・・・・・・ 2 時間
(本時 2 / 2)

（３）これからの学習

- ・学級活動「誰もが幸せに生きられる社会をめざして」・・・・・・・・・・ 2 時間

5 本時の学習

（１）目 標

偏見や差別に負けず、自分らしくよりよく生きようとした愛子さんや婚約者、その家族の行動に触れることで、今自分たちがどのように行動することが幸せな社会の実現につながるのかを考え、行動していこうとする意欲と実践力を育てる。

ねらいとする道徳的価値	C－（11） 公正・公平・社会正義
-------------	-------------------

（２）普遍的な学習のテーマ 人権尊重

個別人権課題名 同和問題

（３）展 開

学 習 活 動	指導上の留意点
1 これまでの学習を振り返る。	・今も部落差別により苦しんでいる人々がいることを想起させるとともに、本時の方向付けをする。
2 愛子さんの周りの人たちの生き方をどのように思うか考え、共有する。	・愛子さんの周りの人たちの生き方に焦点を当て、自分も周りの人も大切に作る生き方がみんなの幸せにつながることに気付かせる。
幸せな社会を実現するために何ができるだろうか	
3 自分自身を振り返り、差別のない社会をめざすために、どのように差別意識を乗り越えていくのか考え、発表する。	・これまでの自分自身の生活や体験をふまえ、具体的な行動について発表できるようにする。 ①②

（４）評 価

- ・幸せな社会の実現に向けて、自分にできることを具体的に考えることができたか。
【価値的・態度的側面】①
- ・仲間の思いを受け止め、自分の思いをしっかりと伝えることができたか。
【技能的側面】②